

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	日本とタイの高齢者の口腔機能低下に関する調査
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	日本のデータは過去の研究で収集したデータを利用する。 過去の研究課題名：フレイルの予測因子となる口腔機能に関する研究（2021-0172） 対象者：新潟大学医歯学総合病院予防歯科受診患者（2021 年～2024 月） 研究責任者：新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野 小川 祐司
③ 概要	我が国においては世界に類を見ない速度で高齢化が進展しており、2065 年には高齢化率が 38.4%に達すると推計されています。平均寿命の伸びに比べて、健康寿命の伸びは小さく、平均寿命と健康寿命の差は約 10 年前後とあまり改善していないことから、いかに健康寿命を延伸し健康格差の縮小が課題です。口腔機能の低下はロコモティブシンドロームやサルコペニアを進行させ、介護に至る原因の第一位である認知症リスクを高める。また、審美的問題や会話能力の低下により社会性が低下し心理的な問題も生じる事から口腔機能を改善することはフレイルの進行を予防するのに有効であると考えられます。しかしながら、前フレイルからフレイルへの移行に寄与する口腔に関する因子、フレイルの予測因子などについてはあまり知られていません。本研究では口腔機能および口腔状態のフレイルとの関係について70 歳以上の成人を対象に調査し、フレイルの予測因子となる口腔機能および口腔状態について明らかにすることが目的です。
④ 申請番号	2025-0180
⑤ 研究の目的・意義	口腔機能および口腔状態のフレイルとの関係について調査し、フレイルの予測因子となる口腔機能および口腔状態について明らかにすることが目的です。
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から 2028 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び 利用方法（他の機関へ 提供される場合はその 方法を含む。）	口腔機能の低下と全身状況の関連を明らかにし、フレイルの予測因子となる口腔状態を明らかにすることが目的です。新潟大学で集めたデータは、タイのパヤオ大学で集めたデータと併せて解析を行います。研究成果は学会発表や論文に使用されますが、個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する 情報の項目	年齢、性別、口腔機能、全身状態、歯の検査結果の情報を転記し、統計解析します。
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。 新潟大学： 研究責任者 小川祐司（新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野 教授）

	研究分担者 竹原祥子（新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野 准教授） 金子昇（新潟大学医歯学総合病院 予防歯科 講師） Kaung Myat Twin （新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野 予防歯科 助教） 星野剛志 （新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野 予防歯科 助教） Dr. Patcharawan Srisilapanan（パヤオ大学歯学部 准教授） 研究協力者 Natcha Tassanapong （新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野 大学院生） 共同研究機関： パヤオ大学歯学部
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学： 医歯学総合研究科予防歯科学分野 准教授 竹原祥子
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野 氏名：竹原祥子 Tel：025-227-2858 E-mail：takeh@dent.niigata-u.ac.jp